

平成29年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
水産部門

カキとかまぼこのハーモニー

○氏名又は名称 株式会社 高政（代表 高橋 正典）

○所在地 宮城県牡鹿郡女川町

○出品財産物（水産加工品）

○受賞理由

・地域の概要

女川町は宮城県の東部に位置する牡鹿半島の基部にあり、地形の特徴は北上山地と太平洋が交わる風光明媚なりアス式海岸である。

女川町周辺は大小の内湾性漁場を有し、カキ、ホタテ、ホヤやギンザケなどの養殖業が盛んである。女川港は古くから天然の良港として知られてきた。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

1960年代に冷凍保存を可能とする技術が開発されたことで、すり身製造は世界各国に広がって、高品質で低価格なすり身が日本に輸入されるようになり、我が国のすり身製造業者は数社にまで減少した。このような中で、株式会社高政は、1971年（昭和46年）に製造量3t/日ですり身製造を開始し、現在では増設を重ねて20t/日となり、数多くの水産ねり製品業者にも販売するなど、我が国の蒲鉾業界への貢献度は大きい。

・受賞財の特色

受賞財である「御膳蒲鉾かき」は原料にこだわりをもって製造されている。まず、カキは最良の時期に収穫した地元産を利用している。すり身製造に最適とされるタイミングですり身加工を行うために漁業者、漁場から市場、工場搬入まで連携して原料を確保している。

また、商品のベースとなる蒲鉾は、カキの濃厚な風味を最大限に引き立てるため、こだわりを持って味や見た目を仕上げており、カキと蒲鉾が絶妙に組み合わせられている。

・普及性と今後の発展方向

将来的には製品の海外輸出や水産ねり製品のさらなる可能性を広げることが期待される。

また、「企業は地域に活かされている」との企業理念に基づき、東日本大震災被災時には水やねり製品を配布することにより被災者や同業他社を支援するなど、地元とも強く結びついていることから、今後も地元と連携した女川町の復興の担い手としての活躍に期待が持てる。